

「家事やってる!?!」



男女共同参画の実践を家庭から

我が国の女性の労働人口分布は、諸外国にはみられない『M字曲線』と呼ばれる30歳代で落ち込む分布をしています。これは、現在でも結婚や出産を契機に退職する（せざるを得ない）女性が少なくないことを示しています。一方で、少子高齢社会にあって、女性の労働力にはこれからも大いに期待が寄せられています。こうしたなか『家事育児は女性の仕事』という意識も世代によって薄れつつあるのも事実。男性の家事参加も「手伝う・手伝ってあげている」意識から、ごく当たり前に「家事を実践する」男性も多くなっています。ここでは、「やってる男性」お二人からのお話を紹介します。

1人目は、育児真っ最中のAさん

「平日は、帰宅が遅いので料理の片付けをやるくらいです。休みの日に、部屋や風呂の掃除をまとめてやっています。特に家事の分担を決めているわけではないけれど、掃除は自分がやることが多いかな。もしかすると妻より僕の方がきれい好きなのかも。部屋がきれいになると気持ちがいいもんです。子どもがハイハイしているんで衛生的にもちゃんとしないといけないと思います。基本は、お互いに気になることをやるって感じです。」



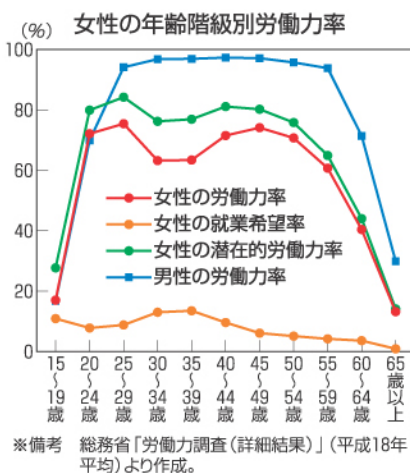
次は、育児休暇の取得経験があるBさん

「『男子厨房に…』と育てられてきましたから、結婚しても家事は妻に任せっきりでした。それが当たり前だと思っていました。ところが、子どもが生まれ、妻の育児休暇が終わり、再び職場復帰したとき、子育てと家事を任せっきりでは家がまわらなくなって。妻が日に日に疲れていくのがわかって放っておけないと…。それでやっと気づいたんです。子どもの世話や洗濯、ゴミ出し、食事の片付けから始めて、今では料理もできるようになりました。家族の一員としてできることはやればいい。お互いが楽になれば、それが家族としてよいことだと思います。今、子どもたちが大きくなってきましたが、そんな私たちの姿は子どもたちもしっかり見えています。」



お二人に共通するのは、気づいたことを自分からやっているということ。『私にはできない』『誰かがやるだろう』と

してしまうのではなく、家族の一員として何ができるかを前向きに考えておられます。『無理をしないで気づいたところから』が、安らぎの場所（家庭）での共生なのでしょう。



※備考 総務省「労働力調査(詳細結果)」(平成18年平均)より作成。

わかちあう 仕事も家庭も喜びも

「そうは言っても…」とお思いの方もいるでしょう。何をすればいいのか迷われているのであれば、思い切って聞いてみませんか。平成19年度の国民生活白書によると、成人男女で「大切にしたいモノ」ナンバーワンは『家族・家庭』だそうです。時代や社会が変わっても、人と人の絆が大切なことに変わりありません。よきパートナーであるためには、意思の疎通が大切です。それには、まず夫婦や家族で話し合うこと。めんどくさがらず、(お互いに)照れくさがらずに、『夫婦の会話・家族の会話』も大切な家事だと考えてみてはいかがでしょうか。

最近の研究でも、少子化歯止めへのキーポイントは男性の家事参加だとか。男女がともに育児・介護も含めた家族の生活と仕事を両立できるようにすることは、地域社会の持続可能な発展のためにも、また、安心して子どもを産み育て、家族としての責任を果たすことができる社会を形成していく上でも重要です。家事を「やってる男性」のみなさん! もっと²宣伝しましょう。

6月23～29日は男女共同参画週間です。

[教育委員会社会教育課] ☎699-8719
kyouiku@town.matsushige.tokushima.jp